

# 事務事業評価シート

H26(標準事業)

① 基本事項	事業コード	事業名	部名	教育委員会事務局
	19033-1	中学校体験活動支援事業	室名	教育研究室
	基本施策の大綱	05:次世代を担う人づくりと歴史文化の振興	財	会計 一般会計
	基本施策	01:子どもたちの学びと健全育成	務	款 教育費
	施策の方向	03:学力・体力の向上と豊かな心を育む教育の推進	科	項 中学校費
戦略プロジェクト		目	目 教育振興費	

② 目的・概要	対象	亀山市内中学校2年生生徒
	目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりが、望ましい勤労観や職業観を育み、進路選択、決定等に必要な能力や態度を身に付ける。</li> <li>地元での勤労体験を通じて地域を支える人たちの生き方を学び、自分の将来について考える。また、社会生活の一般常識(規律、礼儀、言葉遣い等)を習得する。</li> <li>鈴鹿市内の中学校と合同で生徒会研修会を開催することで、市内中学校における生徒会活動の活性化を図る。</li> <li>市内3中学校において人権学習に関する交流を図ることで、各校の取組を見直し、生徒が主体的に行動できる人権学習に取組む。</li> <li>市内3中学校地元県立高校との連携のあり方を研究し、授業等の計画、運営を行うことにより、中高連携の推進を図る。</li> </ul>

			24年度	25年度	26年度
③ 指標	活動	① 名称 職場体験学習の実施	計画値		
		補足 市内事業所受入数	実績値	131	154
			単位	事業所	事業所
	② 名称 職場体験学習参加生徒数	計画値			
		補足 市内3中学校2年生の職場体験学習参加生徒数	実績値	440	420
			単位	人	人
成果	① 名称 職場体験学習生徒アンケートの実施	計画値			
	補足 質問「あなたにとって、この職場体験学習は、進路や将来について考える機会になりましたか」に対する、肯定的意見の割合	実績値	79.4	76.2	
		単位	%	%	

年度計画				年度実績				
④ 事業の計画・実績					平成26年度 市内3中学校職場体験学習の実施 事前学習 事前指導 4月～6月 事前訪問 打合せ 5月中旬 各職場での職場体験学習 6月2日～6月6日 事後指導 まとめ 6月～7月 生徒会研修会 年2回(鈴鹿市と合同) 三中学校人権学習会 年2回開催 中高連携推進委員会 年2回開催 高梁市交流事業(3年に1回)			
	事業費		計画額	予算額	決算額	総人件費 ①	148	平均給与額×③
		事業費		1,185	1,076	一般職員人件費 ②	148	
		国庫支出金				所要人員 ③	0.02	
		県支出金				臨時職員人件費 ④		
		地方債				受益者負担額 ⑤	0	
		その他				受益者負担率	0.0% ⑤ / ⑥	
	再掲	翌年度への繰越額						
		前年度からの繰越額						
		総人件費		①	148			
	総コスト		⑥	1,224				

⑤ 事業の評価	【事業の成果】	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場体験学習では、各校が新規事業所の拡大に努めたことで、生徒が希望する事業所の確保につながり、意欲的な取組となった。</li> <li>生徒会研修会への参加を通じて、他校の実践をまなび、リーダーとして生徒会活動を活性化させることができた。「いじめ防止フォーラム2014」を開催し、各校の取組を交流するとともに、壁新聞を作成し、各校で啓発した。</li> <li>3中学校の人権学習会を開催し、亀山高等学校との人権活動の交流会にも市内の中学生が参加できた。</li> <li>中高連携推進委員会を開催し、亀山高等学校と市内3中学校との授業交流、部活動の交流ができた。</li> </ul>	総合判定	A 順調に進んだ
	【改善の方向性】	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱心に取り組む生徒が多かったが、事業所の負担がどれだけ大きいかわからない生徒もいた。</li> <li>事前指導の授業時間を、マナーや安全確保などの指導にあてたが、事業所から生徒への指導不足を指摘されることがあった。</li> <li>生徒会研修会や人権学習会、亀山高等学校との交流会で得たことを、各学校内で広く還元し、活用する必要がある。</li> </ul>		
	【事業の成果】	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会生活の一般常識(規律、礼儀、言葉遣い等)については、今後も体験学習前に各校においても指導をしっかりと行う必要がある。</li> <li>生徒会研修会や人権学習会、亀山高等学校との交流会で得たことを、各校の会議や研修会で還元し、活用方法を検討する。</li> </ul>		
事業目的の妥当性: 適切		有効性: 適切	最終評価確認者: 教育研究室長 伊達 弘	